Ⅳ　選択的評価事項Ｂ　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

１　選択的評価事項Ｂ「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校は，平成16年4月に独立法人化され，独立行政法人国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校になった。

独立行政法人国立高等専門学校機構法には，「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに，我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」が目的と定められており，その業務として，学生の教育のほかに「機構以外から委託を受け，又はこれと共同して行う研究を実施すること，及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと」などが規定されている。本校ではその趣旨に基づき，教育目的に**「道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る」**と定めている。この目標を具体化するために，本校の中期計画では，「４　その他の目標を達成するための措置（社会との連携，高専間または高専・大学間交流，国際交流等に関すること）」の項に，「地域社会等との連携・協力・社会サービス等に係わる具体的方策」として６項目が置かれている。そのうち，本評価事項に関係があるのは，下記の４項目である。

① 地域のニーズに応える公開講座および講演会等を開催する。
② 産業人対象の技術講習会やフォーラムを頻繁に開催し，リフレッシュ教育を推進する。
③ 科学講座の実施など小・中学生の総合学習への支援，出前講座の実施を積極的に行い，科学や理工学の世界のおもしろさをわかりやすく広めていく。
④ 図書館の市民への開放，閲覧，情報検索サービスをさらに充実していく。また，他の共同利用施設（体育館も含む）の市民への利用サービスを検討する。

本校では，以上の目的を具体化するために，公開講座，出前授業・出前講座，中小企業人材育成プログラム，図書館の一般開放などの事業を行なっている。

２　選択的評価事項Ｂ「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

（１）観点ごとの分析

観点Ｂ－１－①：　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，一般社会人の生涯教育のサポート及び地域の小中学生の学習の支援を目的とした公開講座や出前授業・出前講座などの教育サービスを，地域共同テクノセンター運営部会のもとに実施している（資料Ｂ－１－①－１）。

その内容には，本校主催の公開講座と出前授業・出前講座があるが，平成18年度より経済産業省委託事業「平成18年度高専等を活用した中小企業人材育成プログラム」が新たに加わっている（資料Ｂ－１－①－２）。

公開講座を実施するに当たっては，公開講座予定表を総務課の研究協力係長に提出し（資料Ｂ－１－①－３），地域共同テクノセンター運営委員会の承認をうける必要がある。地域共同テクノセンター運営委員会の承認を受けた講座は，本校ホームページの公開講座のページやポスターなどで公開されるとともに（資料Ｂ－１－①－４，５），函館市文化・スポーツ振興財団の広報誌「ステップアップ」や新聞（資料Ｂ－１－①－６）にも順次掲載を依頼し，広報を行っている。

公開講座の内容は，資料Ｂ－１－①－４，５に示した通り，本校の研究技術力を社会に還元するものや地域社会に密着した題材のものなど多岐にわたっている。一般社会人向けの講座としては，「コンクリート主任技師試験直前対策」などの資格取得に直接結びつく内容のものから，パソコン入門講座，地域の歴史講座などがある。小・中学生向けの講座には，「初めてのガラス細工」「はじめての電子工作」のような高専の授業内容に密着した内容が多いが（資料Ｂ－１－①－７），縄文時代の遺跡の発掘といった地域に密着した内容のものもある。

公開講座のほかに，平成 18 年度より出前授業・出前講座を始めている。出前授業・出前講座のポスターを函館市内，近郊の小・中学校や関係機関に配布して（資料Ｂ－１－①－８），希望を募り，応募があった場合は地域共同テクノセンターが窓口となって実施している。このほか，函館市文化・スポーツ財団のメカニズムフェスティバルにも，学生が中心となって協力している（資料Ｂ－１－①－９）。

つぎに，中小企業人材育成プログラムであるが，中小企業で緊急の課題となっている若手技術者の育成を支援するため，　地域の高等専門学校等が有する設備やノウハウを利用する「高専等を活用した中小企業人材育成事業」が，中小企業庁からの公募により開始されることとなった。これが，経済産業省委託事業の「平成 18 年度高専等を活用した中小企業人材育成プログラム」である。本校は，函館地域産業振興財団からの委嘱で，この事業の実施を担当している（資料Ｂ－１－①－１０）。

以上のような公開講座等の事業のほかに，本校の所蔵する図書などの学術情報の積極的活用のために，図書館の一般市民への開放を実施している（資料Ｂ－１－①－１１）。

資料Ｂ－１－①－１

函館工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程

平成 16 年 4 月 1 日

函高専達第 47 号

（部門）

第5条　　センターに次に掲げる部門(室)を置く。

一　研究開発推進部門…主にセンターの運用，センターの所有する機器・装置等の保守管理，機器・装置等の導入計画立案，学内研究総括とセンター年報等の発刊を行う。

二　産学連携推進部門(技術相談室)…主に受託研究・共同研究のコーディネート，技術相談，産学官連携行事の企画・運営等，産学官連携等を目的とした刊行物の発刊を行う。

三　生涯学習推進部門……主に公開講座，社会人のリフレッシュ教育，出前講座，地域への研究等のPR活動を行う。

（以下略）

（出典　規程集　http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-syomu/reiki_int/reiki_honbun/au05701941.html）

資料Ｂ－１－①－２

高専活用した人材育成事業開始

理論や技術習得目指す

来年2月まで開講

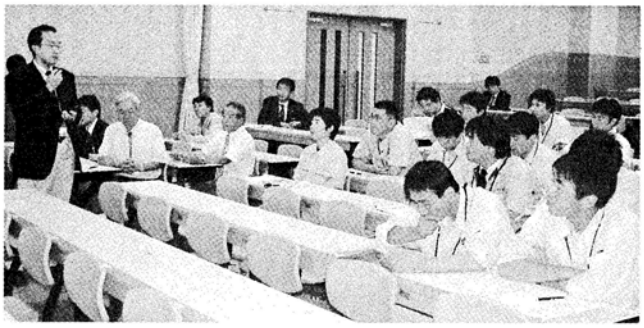
道南の主要産業を学ぶ「2006年度高専等を活用した中小企業人材育成事業」（函館地域産業振興財団主催）が8月30日、函館工業高等専門学校（函館高専）で始まった。受講者約35人は来年2月まで、講義や現場実習を通じ、環境・化学と建設技術分野などを学び、基礎理論と実践的技術習得を目指す。同28日に修了式が行われる。

（工藤康行）

人材育成事業は経済産業省の委託を受け、本年度から全国30カ所で実施。道内では函館市と苫小牧市の2カ所での開講となった。建設・水産業界の複合領域で活躍できる若手技術者を育成しようと、同財団をはじめ、函館高専や道南地区コンクリート技術センターなどが支援する。

8月30日のオリエンテーションで道経済産業局産業人材政策室長の中野健氏は「今後より良い事業にするため、忌憚（きたん）のない意見や感想を聞かせてほしい。仕事との両立は難しいが、最後まで頑張って有意義な時間を過ごしてください」とあいさつ。函館高専の澤村秀治教授が、スライドで建設業を取り巻く環境や地域産業の背景などを説明した。

水産加工業で働く脇坂正和さん（26）は「〝現場力〟を身に付け、環境問題を含む品質管理や衛生管理の知識を高め、今後の業務に生かせるよう頑張りたい」と意気込んでいた。



澤村教授（左）の説明を聞く受講者

（出典　平成 18 年 9 月 1 日『函館新聞』）

資料Ｂ－１－①－３

平成１９年度　公開講座開設予定表

学科等名　機械工学科

講座名	レゴブロックによるライントレースカー体験講座				
開催場所	函館高専機械総合演習室				
開催期間	夏休み中１日	時間帯	13 時～16 時(3 時間)	時間数	3 時間
講習料	(1.) 徴収する。　２．徴収しない。（どちらかに○を付ける。）				
受講対象者	中学生			募集人員	20 名
公開講座の開設趣旨・目的等	レゴブロックを用いたライントレースカーなどの簡単なロボット作製と，パソコンを用いた制御プログラムの作製を行い，最終的に完成したロボットでコンテストを行います。一連の体験を通じて，機械工学に対する興味を喚起することが目的です。				

必要な消耗品等（モノクロ用のコピー用紙は総務課で用意します。）	品名等	個数等	単価	金額（円）	備考
	A4 用紙 500 枚入	2	500	1000	テキスト用
	ｽﾌﾟﾚｰ塗料	3	1000	3000	コース製作用
	表彰状 A4 縦	5	200	1000	競技会表彰用
	合計			5000	

講師予定者の職名・氏名及び講義時間数	職名	氏名	講義時間数	備考
	助教授	本村真治	3	
	助手	川上健作	3	代表者
	助手	中村尚彦	3	
	技官	川合政人	3	
	計	4 名	12 時間	

備考	講習料：１人５００円（電池代実費負担として）。

※ 備考欄には，学校バス使用の希望，傷害保険加入の希望を記入してください。

（出典　総務課資料）

資料Ｂ－１－①－４

（出典　平成 18 年度函館工業高等専門学校公開講座ポスター）

資料Ｂ－１－①－５

（出典　平成 19 年度函館工業高等専門学校公開講座ポスター）

資料Ｂ－１－①－６

14日から公開講座

函館高専

函館市戸倉町の函館工業高等専門学校（長谷川淳校長）は、十四日から十月下旬にかけて開く公開講座四講座の受講生を募集する。

本年度の開講予定は全二十六講座。講師は同高専の教授らが担当する。

会場はすべて同高専。申し込みは電話で受け付ける。受付期間の午前九時から午後五時までに同高専総務課☎0138・59・6316へ。

講座の日程や内容は次の通り。

▽パソコンCAD基礎講座　十四日、十五日、二十一日、二十二日、二十八日、二十九日の全六回、午後六時半から。三次元CADを使用し、基本的な講習・演習をする。社会人対象、定員二十人。受講料七千二百円。受け付けは十二日まで。

▽生命技術を解剖する　三十日午後一時から。日常生活と生物学の関連について学ぶ。中学生以上対象、定員四十人。無料。受け付けは八日から二十八日まで。

▽電気のしくみ　十月一日午後一時から。電気を作る・送る・使う「しくみ」について学ぶ。中学生以上対象、定員四十人。無料。受け付けは八日から二十八日まで。

▽コンクリート主任技士直前受験対策講座　十月二十九日午前十時から。構造・施工問題の解答テクニックを学ぶ。コンクリート技士・主任技士受験希望者対象、定員二十人。受講料三千円。受け付けは十月六日から二十六日まで。

高等教育機関公開講座

函館工業高等専門学校

戸倉町14－1　☎59－6316

○渡島半島東部の中世城館をめぐる旅

日時　5月19日(日)
午前9時～午後4時

受講料　1500円(別途傷害保険)

定員　40名

会場　函館市、北斗市

○初心者からの柔道教室

日時　6月5日～10月30日
(8月11日を除く毎週火曜日)
午後5時30分～7時

受講料　無料(別途傷害保険)

対象　小学4年生～中学生(小学生は保護者同伴が望ましい)

会場　函館高専武道場

（出典　平成 18 年 9 月 7 日『北海道新聞』および『ステップアップ』平成 19 年 7 月号）

資料Ｂ－１－①－７

キーホルダー上手にできた

函館高専で児童15人が工作

函館工業高専の毎年恒例の公開講座「アクリルキーホルダーの作成」が二十六日、函館市戸倉町の同高専で開かれ、同市内の小学生十五人が工作を楽しんだ。

子供たちはまず、同高専にあるコンピューターの専用ソフトを使って、自分の名前やお気に入りのスポーツなどでキーホルダーのデザインを制作。その後、約四㌢四方のアクリル板に工作機械でデザインを彫り込み、油性ペンで色付けして完成させた。

自分の好きなアニメのタイトルをデザインした道教大付属函館小学校の森田亜実さん（四年）は「色もきれいに描けたし、お気に入りのキーホルダーができた」と満足げだった。

（高橋毅）

画面に向かってキーホルダーをデザインする小学生たち

（出典　平成 18 年 7 月 28 日　『北海道新聞』）

資料Ｂ－１－①－８

（出典　平成 18 年度函館工業高等専門学校出前講座ポスター）

資料Ｂ－１－①―９

（出典　函館文化・スポーツ財団「メカニズムフェスティバル」パンフレットより抜粋）

資料Ｂ－１－①－１０

平成18年度 高専等を活用した中小企業人材育成プログラムカリキュラム

授業No.	実施日	分野	テーマ	内　　容
	8/30（水）		オリエンテーション	本講座のねらいを理解するとともに，参加者相互の交流を図る。
講1	9/8（金）	環境･化学	化学物質の基礎知識	化学物質の特徴的な性質と取り扱い方法を学ぶ。
講2	9/13（水）	環境･化学	衛生管理技術	環境衛生分野における最新の動向，技術，理論の実際を学ぶ
実1	9/23（土）	環境･化学	環境衛生の実習	環境衛生に関わる検査技術を習得する。
講3	9/27（水）	建設･施工	景観デザイン	人に優しい景観デザインを考える。
実2	10/14（土）	建設･施工	ＣＡＤ実習Ⅰ	デザインに優れた橋梁の図面を作成しCADの基本を習得する。
講4	10/18（水）	環境･化学	環境化学と地域環境	環境問題と化学物質について理解する。
講5	10/25（水）	環境･化学	環境汚染分析技術	環境汚染物質の現状と分析技術について学ぶ。
実3	10/29（日）	環境･化学	環境分析の実習	環境分析に関わる分析技術を習得する。
講6	11/1（水）	建設･施工	仮設構造の設計Ⅰ	仮設構造の設計に必要な構造力学の基礎を確認する。
講7	11/8（水）	建設･施工	仮設構造の設計Ⅱ	構造力学の基礎を応用し，仮設構造の設計を理解する。
実4	11/18（土）	建設･施工	ＣＡＤ実習Ⅱ	例題を参考に仮設構造の設計を行い，CAD図面で表現する。
講8	11/22（水）	環境･化学	水産廃棄物の有効利用	水産廃棄物として問題となっているイカゴロ，ホタテウロ，ホタテ貝殻などの有効活用の現状と将来展望を理解する。
実5	12/2（土）	環境･化学	廃棄物資源化の実習	ホタテ貝殻等水産廃棄物の有効資源化技術を習得する。
講9	12/6（水）	建設･施工	コンクリート構造設計の基本Ⅰ	許容応力度設計法によるRC部材の設計理論を確認し，計算プログラムを作成する。
講10	12/13（水）	建設･施工	コンクリート構造設計の基本Ⅱ	限界状態設計法によるRC部材の設計理論を確認し，計算プログラムを作成する。
実6	12/16（土）	建設･施工	コンクリートの配合設計，RCはりの作成	コンクリートの配合設計を行い，コンクリートを練混ぜ，円柱供試体，RCはりを作製する。
講11	1/10（水）	建設･施工	建設施工Ⅰ（コンクリート工）	コンクリート工の留意点，コンクリート構造のひび割れについて理解する。
講12	1/17（水）	建設･施工	建設施工Ⅱ（土工・基礎工）	土工，基礎工に関する基本的な知識を習得する。
講13	1/24（水）	共通	品質管理	製造現場における品質管理の重要性と意義を理解する。
講14	1/31（水）	共通	品質管理手法の演習	工程管理の把握方法や，測定値による検定･推定方法を理解する。
講15	2/7（水）	共通	安全管理	建設現場・生産現場における安全管理の基本的事項を学ぶ。
実7	2/17（土）	建設･施工	コンクリートの破壊試験	鋼材とコンクリートの力学的性質，RC部材の破壊を実験によって理解する。
講16	2/21（水）	共通	技術者倫理	建設技術が社会や環境，未来の世代に及ぼす影響を認識し，技術者の責任を理解する。
	3/2（金）		修了式	修了証書授与，懇談会。

（出典　平成 18 年度 高専等を活用した中小企業人材育成プログラム実施報告書）

資料Ｂ－１－①－１１

（出典　本校ウエブサイト http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-gakujo/tosyo/announce.htm）

（分析結果とその根拠理由）

正規課程の学生以外に対する教育サービスとして，毎年，多数の公開講座を計画的に実施しており，出前授業・出前講座を実施する体制も整っている。また，中小企業人材育成プログラム，図書館の一般開放などの事業を行なうことで，地域社会からのニーズにも対応している。

以上より，正規課程の学生以外の一般市民，小中学生，企業技術者への教育サービスが計画的に実施されている。

観点Ｂ－１－②：　サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。また，改善のためのシステムがあり，機能しているか。

（観点に係る状況）

公開講座の講座数と参加者数は，平成 15 年度の 18 講座，301 名から，平成 18 年度には 26 講座，386 名に増加している（資料Ｂ－１－②－１）。

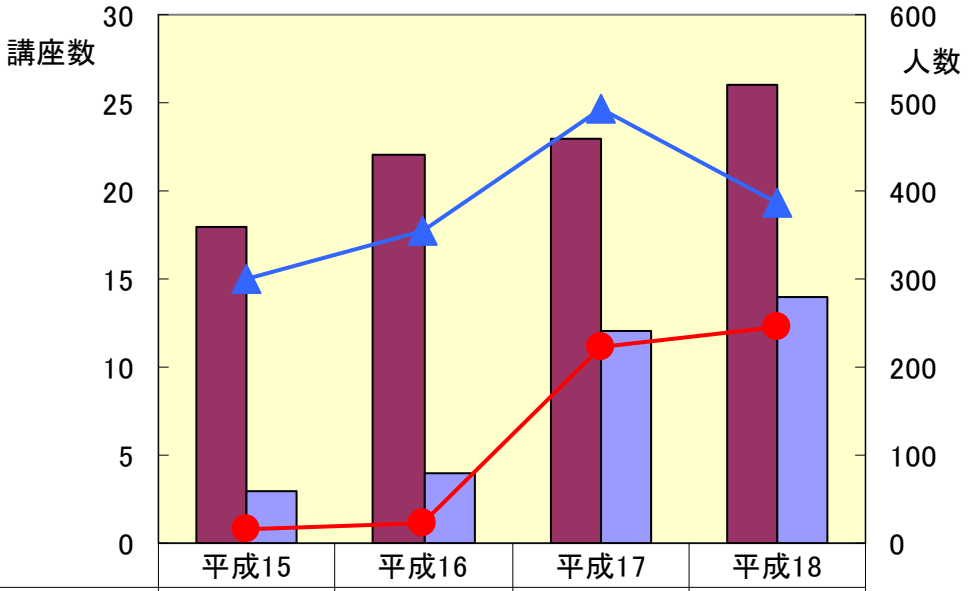
各講座の実施後にはアンケートを実施している（資料Ｂ－１－②－２）。質問の内容は，全講座共通の項目と，各講師が加えた項目とからなる。年度末には集計して，地域共同テクノセンター運営委員会に報告され，翌年度に開講する講座の内容ができるだけ受講者の希望に沿ったものになるように検討される（資料Ａ－１－③－２）。また，平成 17 年度より，前年度に講座を開講した実績に基づき，講座担当教員に対してインセンティブが付与されるなど（資料Ｂ－１－②－３），実施教員を支援する体制も整えられてきている。

中小企業人材育成プログラムには 40 名の受講者があり，地域のニーズを示すこととなった（資料Ｂ－１－②－４）。出前授業・出前講座は，平成 18 年度から始まったばかりの事業であるが，すでに３件の応募があった（資料Ｂ－１－②－５）。

図書館の一般開放については，平成 13 年度より，土曜日にも開館して，利用者の利便を図っている。ここ数年は，入館者数，貸出冊数とも増加する傾向にある（資料Ｂ－１－②－６）。

資料Ｂ－１－②－１

平成 15～18 年度 公開講座の講座数と参加者数



	平成15	平成16	平成17	平成18
全講座数	18	22	23	26
小中学生向け講座数	3	4	12	14
参加者数	301	355	493	386
小中学生参加者数	16	23	223	246

（出典　地域共同テクノセンター運営部会資料）

資料Ｂ－１－②－２

平成 18 年度　函館工業高等専門学校 公開講座　　平成 19 年 2 月 17 日

「 蝦夷錦を極める！ 」　アンケート

1.　この「公開講座」があることをどのようにして知りましたか?

1）ポスターや募集要項		2）新聞，ラジオ	
3）函館市の広報誌		4）インターネット	
5）　ケーブルテレビ		その他（　　）	

2.　この公開講座を受講して満足しましたか?

1）とても満足した		2）満足した	
3）不満である		4）とても不満だ	

3.　講師の教え方は親切・丁寧でしたか?

1）とても親切・丁寧であった		2）親切・丁寧であった	
3）親切・丁寧ではなかった		4）全く親切・丁寧ではなかった	

4.　講師の人数は十分でしたか

1）十分だった		2）多すぎた	
3）少なかった　　希望の人数は　（　　）人 くらい			

5.　受講料は適切でしたか?

1）高いと思う		2）ちょうどよい		3）安いと思う	
4）無料が適切だ		5）　（　　）円くらいが適切だと思う			

6.　開講時間は適切でしたか?

1）適切であった		2）何時でも良い	
3）もっと早い/遅いほうが良い　　希望時間　（　　時頃）			

7.　これまでに「公開講座」に参加したことがありますか？

1）ある		2）ない	
1）を選んだ方は，これまでに参加された公開講座を教えてください （　　）			

8.　北海道の歴史について，新しく知ったことや発見などはありましたか？

1）沢山あった		2）少しはあった	
3）あまりなかった		4）全くなかった	

※　他に受講したい，開講してほしい講座があればご記入願います。また，感想・ご意見がございましたらぜひお聞かせください。　本日はお疲れ様でした。

※

（出典　総務課資料）

資料Ｂ－１－②－３

平成 18 年度校長裁量経費（公開講座推進費分）配分一覧（抜粋）

教員顕彰	機械工学科	教授	[redacted]		100,000	高専機構理事長賞
	物質工学科	教授	[redacted]		100,000	優秀教員賞
	電気電子工学科	助教授	[redacted]		50,000	教育貢献賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	教育貢献賞
	機械工学科	助教授	[redacted]		50,000	業績賞
	物質工学科	助教授	[redacted]		50,000	業績賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	業績賞
	一般･人文	教授	[redacted]		50,000	業績賞

（出典　運営委員会資料）

資料Ｂ－１－②－４

8月から技術者育成講座

函館高専と産業振興財団

建設 デザインや構造設計
水産加工 衛生管理、再資源化も

団塊世代の技術力を若い世代に―。函館高専と函館地域産業振興財団は八月から、函館近郊の中小企業に勤める若手技術者を対象に技術指導講座を始める。日本の技術力を支えてきた団塊の世代が来年度から大量に定年退職するため、〝技術者の卵〟たちが高度の技術や知識を習得できるプログラムを作成、次世代の担い手育成を目指す。（渡辺淳一郎）

経済産業省が本年度から始めた、全国の高等専門学校を活用した新規事業の一環。道内では、函館のほかに苫小牧高専が自動車関連産業で技術者養成講座を開く。

函館高専では、地元企業から要望が強い建設、水産加工分野で技術者養成を図る。建設は環境都市工学科の教員五人が景観デザインやコンクリート構造設計について、水産加工は物質工学科の教員七人が衛生管理や水産廃棄物の再資源化法を指導する。講座は選択制で、建設、水産加工両方の受講も可能。

若手技術者育成講座を８月からスタートさせる函館高専

募集するのは二十三歳以上の技術者約二十人。同高専の教室や実験室を使い、来年二月まで講義を計二十三回開く。受講料は無料の予定で、七月から業界団体を通じて募集を開始する。

本年度は同省から交付される約千万円の補助金を事業費に充てるが、技術者養成は短期間ではできないため、補助が切れる来年度以降も講座を継続する方針。同高専環境都市工学科の沢村秀治教授は「団塊世代の大量退職は函館、道南でも緊急に対策が必要な課題。総合的な技術、知識の習得を目指し、各社の現場で指導的立場に立つような人材を育てたい」と話している。

問い合わせは同財団☎0138・34・2600へ。

（出展　平成 18 年６月１日　北海道新聞）

資料Ｂ－１－②－５

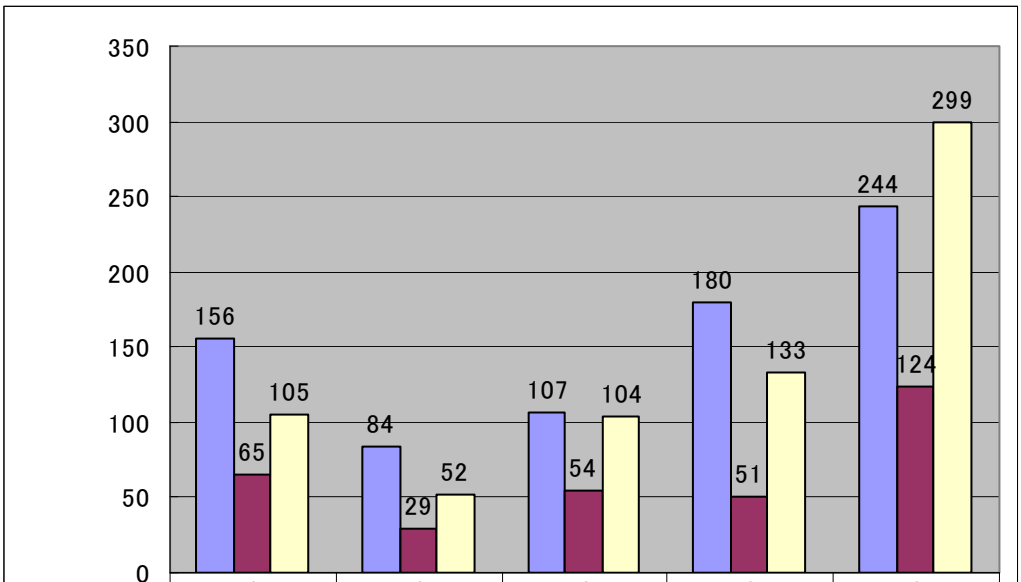
平成 18 年度 出前授業の実施状況

日　　時	実施場所	対 象 者	内　　容	担 当 者
５月　２日（火） 13:35～15:00	函館市立 椴法華中学校	全校生徒	インターネットにおけるルールとマナー	情報工学科　教授 太刀川　　寛 情報工学科　講師 東海林　智　也
７月１９日（水） 13:00～14:20	函館市立 桔梗中学校	３年生及び保護者	高専紹介、ロボット開発及びロボット活動について、中学生に望むこと	機械工学科　教授 浜　　克　己 機械工学科　助教授 本　村　真　治
１２月２１日（木） 13:30～15:00	函館市立 旭岡中学校	全校生徒	インターネットにおけるルールとマナー	情報工学科　教授 太刀川　　寛 情報工学科　講師 東海林　智　也

（出典　地域共同テクノセンター運営委員会資料）

資料Ｂ－１－②－６

平成 14～18 年度 図書館一般開放の利用状況

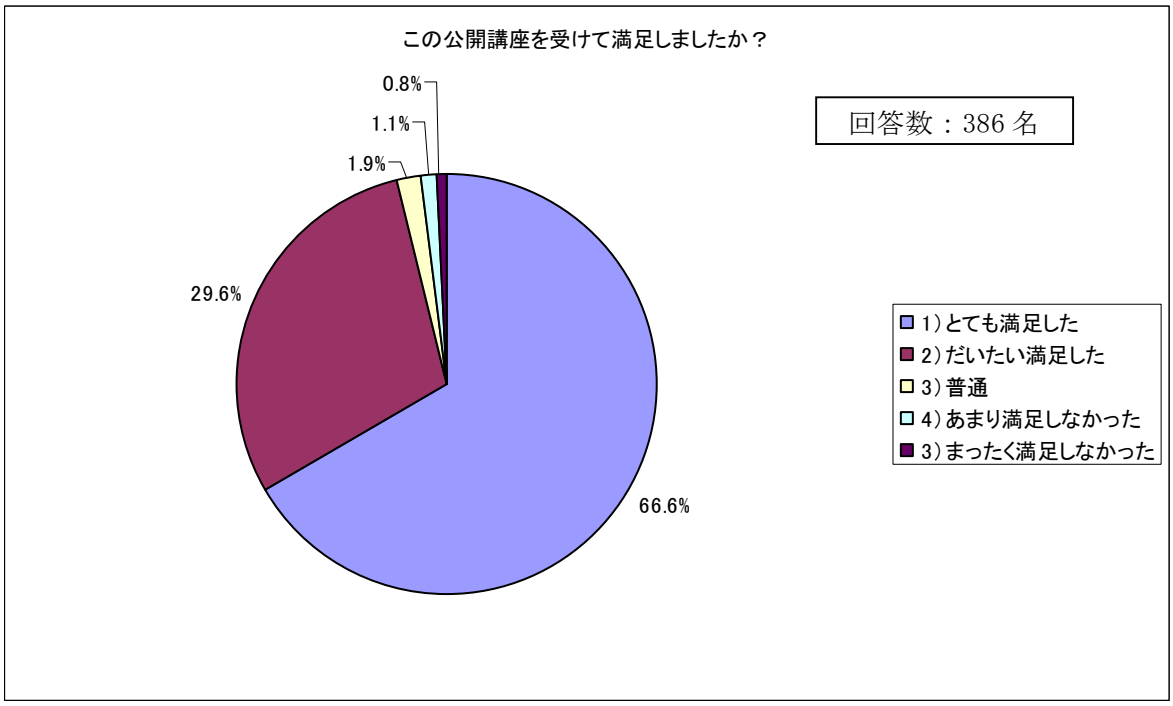


	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18
入館者数	156	84	107	180	244
貸出人数	65	29	54	51	124
貸出冊数	105	52	104	133	299

（出典　図書館統計資料より）

資料Ｂ－１－②－７

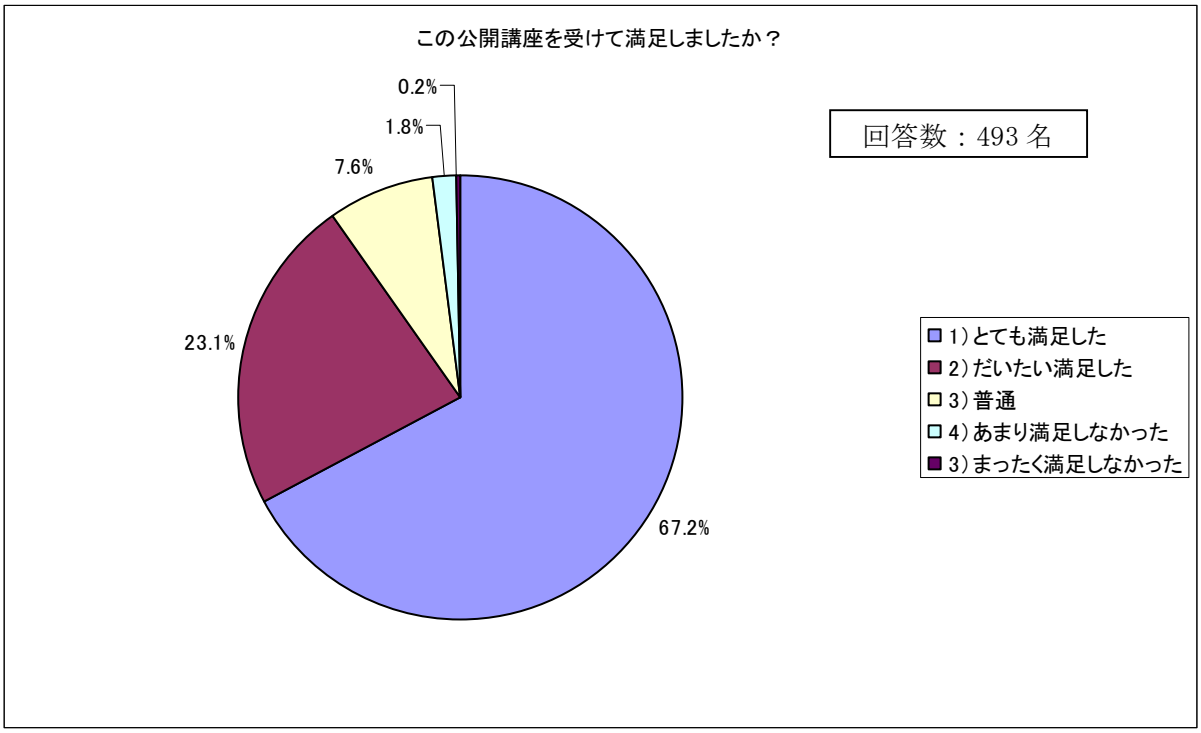
平成 18 年度 公開講座アンケート集計結果



（出典　地域共同テクノセンター運営部会資料）

資料Ｂ－１－②－８

平成 17 年度 公開講座アンケート集計結果



（出典　地域共同テクノセンター運営部会資料）

（分析結果とその根拠理由）

公開講座等のアンケートは，集計と分析を担当部署が行って，継続的に改善を図っている。平成18 年度の全公開講座のアンケートの集計結果によれば，「とても満足した」「だいたい満足した」と答えた受講者が，96%を越えている（資料Ｂ－１－②－７）。平成 17 年度の集計結果では，「とても満足した」「だいたい満足した」と答えた受講者は約 90%であった（資料Ｂ－１－②－８）。また，アンケート結果や実施状況の集計結果を踏まえて，次年度の公開講座等の実施計画を立てる体制となっている。

以上のことから，公開講座等の改善のためのシステムが機能し，成果を収めているといえる。

（２）優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

一般社会人や小中学生を対象とする多数の公開講座，出前授業・出前講座，中小企業人材育成プログラムなど，地域社会のニーズに対応した講座を継続的に実施している。

(改善を要する点)

該当なし

（３）選択的評価事項Ｂの自己評価の概要

正規課程の学生以外に対する教育サービスとして，地域共同テクノセンターを窓口として，公開講座や出前授業・出前講座などのサービスを多数実施し，さらに中小企業人材育成プログラムなどの地域のニーズに密着した事業が計画的に実施されている。

これらの事業の実施に当たっては，参加者にアンケートを実施し，満足度を調査するとともに要望等を取りまとめて次年度の計画に反映させている。公開講座については参加者も多く，アンケートの結果から参加者の90%以上が満足しており，活動の効果が上がっている。また，地域共同テクノセンター運営委員会が計画の策定と実施後の評価，ならびに全体の見直しを行っており，改善のためのシステムが機能している。

一方，図書館の一般市民への開放を通じて，学術情報の社会への還元に心がけている。平日の夜間20時まで，および土曜日にも開館して，利用者の利便性の向上に心がけており，利用者も年々増えてきている。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。